

## 第 1 回 橿原市市有施設再配置検討審議会 会議録

日 時：	平成 29 年 4 月 20 日（木） 13：30～15：45				
場 所：	大和信用金庫八木支店 3 階第 3 会議室				
出席者：	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 30px; vertical-align: top;">委員</td> <td>赤崎会長、藤原委員、植田委員、北浦委員、米田委員、堀野委員、榎谷委員 岩田委員、崎山委員、前川委員、細川委員、小川委員、本塚委員、安村委員</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">事務局</td> <td>森下市長、西田政策審議官、中西総務部長、高井総務部副部長 資産経営課：黒田課長、新田課長補佐、米田課長補佐、河合係長、原田主査 河野主査、里中事務員 長大：岡庭、木原、木戸口、古川</td> </tr> </table>	委員	赤崎会長、藤原委員、植田委員、北浦委員、米田委員、堀野委員、榎谷委員 岩田委員、崎山委員、前川委員、細川委員、小川委員、本塚委員、安村委員	事務局	森下市長、西田政策審議官、中西総務部長、高井総務部副部長 資産経営課：黒田課長、新田課長補佐、米田課長補佐、河合係長、原田主査 河野主査、里中事務員 長大：岡庭、木原、木戸口、古川
委員	赤崎会長、藤原委員、植田委員、北浦委員、米田委員、堀野委員、榎谷委員 岩田委員、崎山委員、前川委員、細川委員、小川委員、本塚委員、安村委員				
事務局	森下市長、西田政策審議官、中西総務部長、高井総務部副部長 資産経営課：黒田課長、新田課長補佐、米田課長補佐、河合係長、原田主査 河野主査、里中事務員 長大：岡庭、木原、木戸口、古川				
欠席者	委員 森本委員				
資料：	第 1 回 橿原市市有施設再配置検討審議会 次第 資料 1 橿原市市有施設再配置検討審議会委員名簿 資料 2 橿原市市有施設再配置検討審議会規則 資料 3 橿原市公共施設等総合管理計画（概要） 資料 4 橿原市公共施設配置マップ 資料 5 橿原市公共施設評価ガイドライン（概要） 資料 6 ワークショップ実施要領（案） 当日配布 施設分類別基本的方針策定の流れ				
1. 開会	開会挨拶				
2. 委員紹介	審議会委員及び事務局の紹介				
3. 市長の諮問	<b>市長から審議会への諮問</b> <b>【諮問書】</b> 本市では、所有している公共施設等の状況を把握し、限られた財源の中で総合的・長期的視点に立って適切な維持保全・活用を行うため、全庁横断的な情報の一元化に取り組み、平成 28 年 9 月に「橿原市公共施設等総合管理計画」を策定しました。本計画では、「保有総量の最適化（縮減）」、「長寿命化の推進」、「経済性の向上」の方針を定めており、今後、個別具体の公共施設等のあり方を検討していく際の道標となるものです。 また、「保有総量の最適化（縮減）」では、現在所有する公共施設の延べ床面積を 40 年間（平成 67 年度末）で 20%縮減することを目標に定めており、本計画を進めるために施設分類別の基本的方針の策定が急務となっております。 つきましては、当審議会にて橿原市公共施設等総合管理計画の方針に基づきながら、縮減目標を達成させるための施設分類別の基本的方針について、委員の皆様には、さまざまな視点からご審議を賜り、ご提言いただきますようお願い申し上げます。				
事務局	<b>諮問書補足説明</b> 公共施設等総合管理計画の方針に基づきながら延床面積を 40 年間で 20%縮減することを目標としている。この目標を達成するための施設分類別の基本的方針を策定したいと考えている。基本的方針のなかでは、「ある分類として、施設の統合や複合				

	<p>化などの再編を行い何%程度の規模縮減が必要」といった方向性や縮減目標、「存続する施設については、施設の老朽化改善、空調設備の導入等による施設環境の質的改善、バリアフリーなどの対策を実施する」など懸案事項の改善策や施設の活用方法などを策定したいと考えている。よって、審議会では施設分類別の今後の方向性や縮減目標、施設の活用方法などについて答申をいただきたい。</p> <p>施設分類別基本の方針策定の流れとして、当審議会は平成 29・30 年度の 2 ヶ年で 6 回程度の開催を予定。</p> <p>市民参加型ワークショップにおいて市民意向を把握し、庁内組織である推進委員会で「施設分類別基本の方針」を検討し、当審議会で審議する。</p>
4. 会長選出	<p><b>会長選出</b></p> <p>互選により赤崎会長を選出。会長指名により藤原職務代理者を選出。</p>
5. 議題	<p><b>議題 (1) 会議の運営方法について</b></p> <p>会議の公開・非公開及び会議録の形式・確定方法について審議</p> <p>審議会は公開とする。傍聴を認める。会議録は公表する。(決議事項)</p> <p>会議録の形式は議事概要とする。署名する前に各委員が議事概要の内容を確認する。会議録署名委員を 2 名置き、会長ともう 1 名を輪番で指名する。(決議事項)</p> <p>《傍聴者入場》</p>
事務局	<p><b>議題 (2) 公共施設等総合管理計画について</b></p> <p>公共施設等総合管理計画の概要説明</p> <p>【資料 3 榎原市公共施設等総合管理計画 (概要)】</p>
委員	<p>公共施設等総合管理計画及び公共施設評価ガイドラインについて、議会の手続き状況と市民の周知状況を教えてほしい。</p>
事務局	<p>総合管理計画及びガイドラインは策定時に議会に報告済み。総合管理計画はリーフレットを作成し広報誌に折り込むとともに、全文をホームページに公開し周知を図っている。ガイドラインも全文をホームページに公開し周知を図っている。</p>
委員	<p>総合管理計画の公共施設等の管理に関する基本方針について、追加・修正は可能か。</p>
事務局	<p>総合管理計画の基本方針は変えることが出来ないものと考えている。</p> <p>しかし、施設分類別の基本の方針を様々な視点から審議いただき、最終的に、答申での方針等は変わることもあると考えている。</p>
委員	<p>榎原市の歳入を見ると、地方交付税や国庫支出金などによる依存財源が 48% であり、財政構造は非常に脆弱であると共に、今後国からの補助金は年々減少することが予測され、より厳しくなるとの認識を共有することが必要である。</p> <p>単に、公共施設の延床面積を減らすだけの問題ではなく、榎原市の財政状況が厳しいということを認識する必要がある。審議会の議論のスタートとして財政状況の説</p>

	<p>明をしていただきたい。</p> <p>公共施設の将来更新コスト試算について、本来は年間約31.5億円不足するが、長寿命化と経済性の向上を行うことで年間7.3億円の不足となり、延床面積20%の削減になる。すなわち、長寿命化と経済性の向上を行うことで、延床面積20%の削減で成立する訳であり、実現できないと20%削減の議論にならないことを理解し、議論する必要がある。また、現実としては31.5億円が不足しているとの認識が必要である。このことは審議会はもちろん、市民とも認識を共有する必要がある。</p>
委員	<p>次回の審議会では、財政状況の説明から施設更新する際に不足する財源の話などに関して補足的な説明をすること。</p>
委員	<p>施設の延床面積を減らすことについて、建物の種類によって縮減効果が異なるという考えもある。単純に面積を20%減らすにも、建物毎の縮減効果を考慮しての20%削減なのか。それとも単純に平均して面積を減らせばいいということなのか。</p>
事務局	<p>将来の更新費用は全ての施設の更新費用を平均したものを算出している。</p>
委員	<p>もし更新費用の平均値をとったのであれば、（どの施設の延床を減らしても縮減する更新費用は同じになるので、）全延床面積に対し占める割合が多い、学校教育施設の約44%、市営住宅の14%が延床面積削減の対象となるのか。</p>
事務局	<p>現時点では、延床面積の削減にあたり特定の分類を対象とはしていない。ただし、延床面積として学校教育施設、市営住宅の2つの分類で50%以上あるので、延床面積を全体で20%減らす中で影響があることは予測している。</p>
委員	<p>例えば、長寿命化や経済性の向上を図りながら、学校教育施設や市営住宅等をどれ位減らせば、延床面積20%削減で成り立つかの根拠はあるのか。</p>
事務局	<p>学校やその他の施設で、何パーセント削減するかの設定はしていない。また、各施設の削減効果について詳しい数値も精査できていない。</p>
委員	<p>精査できていないのは分かったが、精査は審議会で行うのか。</p>
事務局	<p>今回の審議会でも各施設の経済的な削減効果までを委ねるものではないと考えている。</p>
委員	<p>色々な施設を考えると前提となるのは地域人口である。人口を議論の大前提にしておかないといけない。</p> <p>総合管理計画の将来推計人口は人口ビジョンとなっているが、人口ビジョンの中で示されているのは将来推計人口なのか目標人口なのか確認したい。</p>
事務局	<p>人口ビジョンの人口は目標値の人口である。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、40年後の人口は8万人近くまで減少するが、人口ビジョンでは、様々な政策を実施することで人口減少を抑え、40年後の人口を10万人に留めることを目標にしている。</p> <p>なお、人口ビジョンは2010年の国勢調査のデータをベースに推計している。今後、</p>

	新しい国勢調査のデータをベースに人口ビジョンの一定の見直しが必要だとは考えている。
委員	資料の中に人口ピラミッドの記載がない。現在及び予測の年齢別人口ピラミッドを示してほしい。
事務局	年齢別人口ピラミッドは人口ビジョンに記載しているので、人口ビジョンを配布する。 (休憩時に「橿原市人口ビジョン」を配布)
委員	20%の目標について、今後、公共施設の新設を認めての20%なのか、それとも認めないのか。人口を増やすためには、子育て世代の施設を新設する必要がある。
委員	若い人は橿原市が通勤に便利なので住んでいると思う。しかし、赤ちゃんが生まれたとき、例えば保育所が無いとなると、直ぐに市外に引っ越してしまう。折角、橿原市を選んでもらったのに、もったいない話である。その辺りを考えると子育て世代の施設が必要と思う。
委員	経済性の向上は勿論重要だが、地域社会を維持できなくしてまで、経済性を追求して小学校を減らすのか。この審議会では人口確保政策の議論が主題ではないものの、生産年齢人口を増やすような政策にかかわることまで、念頭に置いて議論すべきかどうかを決めなければならない。
委員	議論の大前提が人口である。(推計)人口を8万人にするのか10万人にするのか、人口ビジョンの10万人を採用するにせよ、年齢別の構成や地域別の分布も含めて、人口の構成や目標をきちんと整理しないといけない。
委員	教育に携わる立場上、現状維持をしてほしい思いはある。また、教育の質をさげてほしくない。しかし、他市では小学校等の統廃合を行っている市もある。橿原市でも統廃合が必要であれば検討を行う必要があるとは考える。
委員	基本方針の経済性の向上があつてこそ今回の議論だと考える。経済性の向上と教育の質の話は同じ土俵の中で議論する内容ではないと思う。 公共施設全般について経済性の向上を求めていく必要があつて、縮減の議論や、歳入の議論が出てくるわけであり、教育の質の話と混同すると議論が違う議論になってしまう。
委員	本日の審議会の目的は、審議会で何を審議するかを認識するためである。 事務局については、各委員の議論に際し不足していた資料があつたので、次回までに資料を準備し、説明してください。
事務局	了承  《休憩》
	<b>議題 (3) 公共施設評価ガイドラインについて</b>

事務局	<p>檀原市公共施設評価ガイドラインの概要説明</p> <p>【資料5 檀原市公共施設評価ガイドライン（概要）】</p>
委員	<p>審議会では評価の結果について議論するのではなく、評価結果の資料をもとに施設分類別の基本の方針を審議することとなる。</p>
委員	<p>長寿命化があつて初めて削減目標として20%削減が成立すると思つている。にもかかわらず「ガイドラインの位置づけ」では、個別方針にも長寿命化計画がでてきているのは矛盾しているのでは。</p> <p>長寿命化する施設が見えてからでないか、どの施設を削減するかを議論できないのではないか。</p>
事務局	<p>手順が矛盾しているのではないのかとの趣旨かと思う。</p> <p>今回の計画を進めるには当然長寿命化が並列していることは理解している。今回の審議会で大枠の基本の方針を示していただいた後、それを受けて個別の計画を策定していく事になると考えている。その個別計画の中で、更なる長寿命化計画を策定することも有ると考えている。</p>
委員	<p>審議会が長寿命化を判定するのか。</p>
事務局	<p>審議会では基本の方針を示していただきたい。</p> <p>その方針の中で存続する施設等については、提示いただいた一定の方向性をもとに市で長寿命化を検討する。</p>
委員	<p>審議会では、施設評価で出てきたものに対して適切かどうか審議すると認識した。</p>
委員	<p>少し認識が違うかも知れないが、長寿命化は60年もつ建物に何かを付加（投資）して80年もたせることである。施設評価の中で、目的や有効性から見て、その施設を残す必要があるとなつて始めて、長寿命化の話が施策としてでてくると考える。</p> <p>評価と長寿命化は分けて整理すべきではないか。</p>
委員	<p>それであれば、評価の中で長寿命化の対象となる施設が選別されなければおかしいと考える。評価のプロセスの中で長寿命化の対象施設が判定され、長寿命化を除く施設で20%削減を審議するべきであると考えている。</p>
委員	<p>色々な意見が出ておりますが、このことを理解して事務局は対応してください。どの要望にも対応できるように事務局よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p><b>議題（4） ワークショップの運営について</b></p> <p>ワークショップの運営について説明</p> <p>【資料6 ワークショップ実施要領（案）】</p>
委員	<p>今回のワークショップは、シミュレーションを通して、外してはならない枠組みやサービス等に対して、市民の方がどのようなことを考えているかを捉えたいという主旨だと考えて間違いないか。</p>

事務局	今回のワークショップは、実際の計画を立てるものではなく、施設の統廃合などに際して、市民の方がどの様に考えるかを捉えるために行います。
委員	今回の説明ではワークショップの詳細が分からないので、次回の審議会で詳細の説明をお願いします。
事務局	了承。
委員	幼稚園・小学校等の教育施設は、このワークショップの中では具体的には取り扱わないと考えていいか。
事務局	学校だけのワークショップとしては取り扱わないが、多くの施設の中の1つの施設として学校があるとの考えでは取り扱う。
委員	シミュレーションの地区を5地域に分けているがどのような基準か。
事務局	都市計画マスタープランで行っている。 都市計画マスタープランを各委員に配ってほしい。
委員	ワークショップ参加者を、この内容、この時間で公募をして集まるのか心配している。
事務局	現在応募は3名です。今後、関係機関も含めて声かけをし、広く募集していきたい。
委員	再配置の計画は市民の意見を聞くことは重要である。自主的な参加が重要で、集める努力をしてください。例えば、子育て世代も呼んでほしい。その場合、託児所まで用意する等してほしい。
事務局	了承。
6. その他	<p><b>その他について</b></p> <p>次回 第2回 榎原市市有施設再配置検討審議会 平成29年7月11日に開催。</p> <p style="text-align: center;">《終了》</p>